

令和2年、大滝の春

——大滝会元会長 故紺野健吉様に捧ぐ——

大滝会 相談役・前会長 木村義吉

大滝会 会長 斎藤正美

大滝会 理事 HP 管理人 紺野文英

大滝会 特別会員理事 鹿摩貞男

はじめに

大滝の春は、その訪れは遅く足早に去って行くようです。この度4月28日、5月3日、5月7日と3回訪問してみましたがその変化の早いことには驚きます。

5月17日には、幸蔵滝（現国道13号大滝橋付近の1級河川摺上川右支川小川に所在）に行つて来ました。もう春とはいえませんが特別報告として追加しておきました。

さて例年ですと、大滝会の総会兼観桜会は山桜満開の大滝分校跡で5月3日に開催されています。しかし今年は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」（緊急事態宣言）が政府から発出せられ、多くの人が集まるイベントは自粛することとなりました（※）。従って、大滝会の総会兼観桜会も自粛延期となったものです。ここに、大滝の今年の春をウェブ上（写真）で紹介しますので、懐かしく思いだして頂ければ幸甚です。

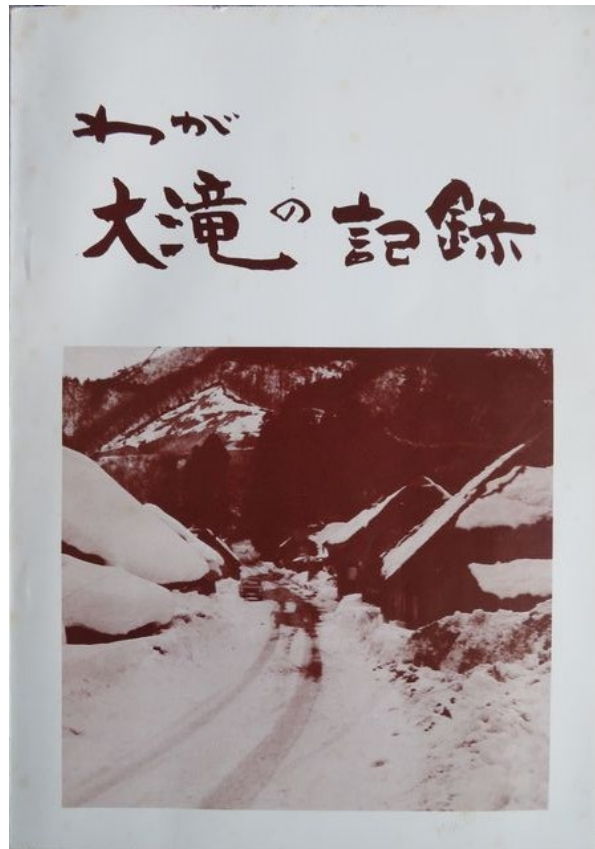
※ 緊急事態宣言は、今年3月に成立した改正新型インフルエンザ対策特別措置法に基づくもので、政府は4月7日、緊急事態措置を実施すべき区域として7都府県を指定した。同月16日には5月6日までの期限で全国に対象区域が拡大された。しかし5月4日には、5月31日まで延期する旨政府から発表がありました。この緊急事態宣言により外出自粛や休業要請がおこなわれています。

なお、5月15日、緊急事態宣言が東京など8都道府県を除き福島県など39県で解除されました。同21日には大阪など関西3府県が解除され、同25日には首都圏・北海道が解除されすべての都道府県で緊急事態宣言が解除されました。しかし自粛要請や休業要請は引き続き一部継続される。

折しも5月2日、大滝会の創設、発展に尽力された大滝会元会長紺野健吉様が101歳でご他界されました。ご冥福をお祈りしますと共に、紺野元会長がこよなく愛されたとと思われる大滝の春を報告する当レポートを捧げたいと存じます（参考写真-1①～参考写真-4③）。

本稿は、4月28日撮影分をベースとして、大滝集落内の大滝記念碑等スポット箇所を含めた全体的な報告、5月3日及び7日分はスポット箇所を主とする報告としています。また、大滝集落とは直接関係ありませんけれども、現国道13号東栗子トンネルの前後、E13東北中央自動車道新栗子トンネル福島側付近の状況についても併せて報告します。前述の通り5月17日の幸蔵滝も追加してあります。

なお今回は、解説的なものは最小限とし写真中心のレポートとしております。当該各箇所について詳細をお知りになりたい方は、当HPの該当サイトを巻末に案内しておりますのでご参照下さい（「参考資料案内」）。



〔参考写真-1①〕
昭和52年1月『わが大滝の記録』発刊 紺野健吉編集委員長



〔参考写真-1②〕
第2回大滝会総会(飯坂温泉(湯野)福島県婦人会館)『わが大滝の記録』配付。S520219
(半田サキさん提供・大滝会 HP)



大滝記念碑除幕式 昭和54年10月14日

〔参考写真-1③〕
 大滝記念碑除幕式 S541014 高野孝治建設委員長、紺野健吉常任委員(「事務局長」)(大滝会 HP より)。この日「大滝会」正式発足(規約制定) 紺野健吉初代会長



〔参考写真-2①〕
 大滝記念碑建立 10 周年。敷地舗装が 5 月に完成。副碑建立(平成元年 5 月 紺野健吉会長寄贈 H011014(渡辺正義さん提供・大滝会 HP))



〔参考写真-2②〕
望郷 10 周年記念 ふるさと大滝を偲ぶつどい 紺野健吉実行委員長
H011014(半田サキさん提供・大滝会 HP)



「離郷回想 20 周年記念」大滝出身者の集い 平成 10 年 10 月 11 日

〔参考写真-2③〕
離郷回想 20 周年記念大会 中央、東屋沼神社宮司樋口重雄様 H101011(木村義吉様提供・大滝会 HP)



〔参考写真-2④〕
望郷25周年記念大滝会 茂庭ダム見学会 H151014（柎木新吉様提供・大滝会 HP）



〔参考写真-3①〕
大滝山神社遷宮除幕式 H181008（高野英治さん提供）



〔参考写真-3②〕
大滝山神社 遷宮除幕式。 東屋沼神社宮司樋口重雄様、左側紺野健吉会長 H181808(大滝会 HP)



〔参考写真-4①〕
望郷 30 周年記念年大滝会の集い、前列中央紺野健吉会長(東北中央自動車道大滝トンネル見学 H201005(大滝会 HP))



〔参考写真-4②〕
望郷35周年記念大滝の集い H250503(大滝会 HP)



〔参考写真-4③〕
望郷35周年記念大滝の集い。
特別功労賞 左から半田久三郎様、須田和市様、
紺野健吉様(平成23年5月会長退任)。
H250503(大滝会 HP)

第1. 大滝集落(4月28日〔火〕)

大滝集落内は、まだ早春の感じでしたけれども、里の方では(福島市街)3月28日に観測史上最速で桜の開花宣言(4月1日満開)がありました。大滝近くの山桜は盛りとなっています。

大滝記念碑の東側のソメイヨシノ(正確には種類名不詳、山桜かも)と大滝山神神社の一部の山桜が満開となっておりましたが、旧集落内の他の山桜はちらほら咲き始めという感じでした。

大滝の全体的な様子は、本節において紹介することとします。

1. 葭沢地区

葭沢地区(字葭沢)は、旧葭沢橋手前の吉田饅頭屋跡付近(現在空き地、資材置き場)から旧大滝橋までである。

旧葭沢橋(第3代)の山桜は少し早かったようです。

(写真-1①~⑥)



(写真-1①)
大滝集落入口付近。現国道13号・大滝橋手前、
写真右側が入口。山桜花盛り。米沢側を望む。



(写真-1②)
葭沢橋(第3代目)、福島側から米沢側を望む。



(写真-1③)
葭沢橋、福島側を望む。



(写真-1④)
曲り角から福島側を望む。右側は赤岩道。



(写真-1⑤)
水神様と大滝橋(第3代目)、曲り角から望む。



(写真-1⑥)
水神様

2. 大滝地区

大滝地区（字大滝）は、旧大滝橋から胡桃橋までである。この区間には、旧大滝分校や大滝記念碑、氏神様の大滝山神神社が含まれている。（写真-2①～写真-3④）



(写真-2①)
大滝橋から米沢側大滝地区を望む。



(写真-2②)
神社参道入口付近から福島側を望む。



(写真-2③)
神社参道入口付近から米沢側を望む。



(写真-2④)
いら沢橋、米沢側を望む。 020428



(写真-2⑤)
入イラ澤橋(手前)付近から、米沢側(胡桃橋)を望む。



(写真-2⑥)
胡桃橋から福島側を望む。



(写真-3①)
大滝橋、福島側を望む。



(写真-3②)
大滝川、大滝橋上流。右側柵木家跡。



(写真-3③)
いら沢橋、福島側から望む。



(写真-3④)
入いら沢橋、上流側から望む。

〈大滝記念碑〉

(写真-4①～⑥) 【参考写真-5①～②】



(写真-4①)
下の分校跡から望む。



(写真-4②)
大滝記念碑、旧大滝分校入口から望む。



(写真-4③)
大滝記念碑と副碑を望む。



(写真-4④)
分校校庭跡から古峯ヶ原様を望む。
下は大滝記念碑。
ソメイヨシノは満開、山桜は咲き始め。



(写真-4⑤)
ソメイヨシノ(種類名推定)満開



(写真-4⑥)
ヒヨドリ 花蜜を吸いに。



[参考写真-5①]
大滝記念碑、
昭和54年[1979年]10月14日建立。
碑文は紺野健吉元会長の撰。末尾和歌(小松
隆亥分校教諭作)草書は元会長の揮毫で
「此処可(ここか)しこ分可(わか)れて棲むも
大多喜能(おおたきの)さと」
(碧水・元会長吟号)



[参考写真-5②]
大滝記念碑副碑、
離郷満10周年記念(平成元年[1989年]5月建立
紺野健吉元会長寄贈)。
本碑末尾和歌の詠み方等を記す。

〈大滝山神神社・分校跡〉

(写真-5①～⑤) [参考写真-5③]



(写真-5①)
上の大滝分校跡全景、西側から望む。



(写真-5②)
上の大滝分校跡全景、東側から望む。



(写真-5③)
大滝山神神社を望む。
「大滝分校の集い記念植樹(H220717)」の桜
「松前紅笠桜」も咲き始め。



(写真-5④)
早い山桜と大滝山神神社を望む。
右側は大滝山神神社由来碑



(写真-5⑤)
大滝山神神社



[参考写真-5③]
大滝山神神社由来碑。本殿再建遷宮時に建立
(平成18年〔2006年〕10月8日)。
碑文は、紺野健吉元会長による。

3. 長老沢(胡桃平)地区

ここで云う長老沢地区(字長老沢)とは、胡桃橋から旧西川橋までのことで通称 ^{くるみだいら} 胡桃平と呼ばれている。(写真-6①~⑥)



(写真-6①)
胡桃橋、米沢側を望む。



(写真-6②)
胡桃橋米沢側、右側上旧建設省栗子大滝国道出張所跡



(写真-6③)
後藤家跡付近から福島側を望む。



(写真-6④)
須田家跡付近から米沢側を望む。



(写真-6⑤)
須田家跡付近から福島側を望む。



(写真-6⑥)
紺野家跡付近から米沢側を望む。
右は、渡辺清治家旧宅。



(写真-6⑦)
せとの沢付近から米沢側を望む。
右は大滝御小休所。



(写真-6⑧)
高野家跡付近から福島側を望む。
左、大滝御小休所。



(写真-6⑨)
大滝御小休所付近から福島側を望む。

〈大滝御小休所・他〉 (写真-7①~⑤)



(写真-7①)
大滝御小休所
(旧中屋旅館・渡辺正義家旧宅)を望む。



(写真-7②)
大滝御小休所(旧中屋旅館、渡辺正義家旧宅)。
明治天皇御巡幸明治14年10月3日御小憩。
左御駐輦記念碑「鳳駕駐蹕之蹟」(明治41年9月12日建立)。
右昭和10年11月文部省史蹟指定記念石碑
(昭和18年11月建立)。



(写真-7③)
大滝御小休所史蹟境界
(史蹟指定時昭和10年11月設置推定)



(写真-7④)
せとの沢・大滝御膳水
(写真中央、コンクリート樹箇所)。



(写真-7⑤)
渡辺清治家旧宅を望む。

〈旧西沢橋付近～蛇体道〉

長老沢地区の内、人家集落のなかった旧西川橋（第2代）付近についてはここに示す。通称蛇体道とは、旧西川橋付近から万世大路（旧国道13号）と別れ旧蛇体鉦山（茂庭鉦山）へ通ずる6kmほどの林道（林野庁「林道規定」上の林道ではない）のことを言っている。蛇体鉦山は昭和18年頃閉山しているが、戦後、蛇体鉦山の事務所跡等を利用して児童養護施設青葉学園が創立されている（蛇体園舎、昭和21年6月～11月）。（写真-8①～⑤）



(写真-8①)
旧万世大路から蛇体道を望む。
写真外左旧西川橋(万世大路、至米沢)、
写真奥左側西川、右横川でその沢沿いに
蛇体道があり、クビト峠を經由し蛇体鉦山跡
(青葉学園・蛇体園舎跡)に至る。
E13新西川橋が見える。



(写真-8②)
蛇体道側から旧万世大路・旧西川橋(右上)を
望む。
西川橋から左側が大滝(長老沢)地区、
右側が石小屋地区。



(写真-8③)
旧国道 13[5]号、旧西川橋付近から福島側を望む。



(写真-8④)
蛇体道からE13 新栗子トンネル福島側坑口を望む。
右側は避難坑。
手前の橋はE13 新西川橋(4代目西川橋)



(写真-8⑤)
旧国道 13[5]号旧西川橋(2代目)。
左上旧万世大路石小屋地区、手前大滝地区。

4. 域外編

E13 東北中央自動車道 新栗子トンネル福島側坑口付近) (写真-9①~⑤)



(写真-9①)
E13 新栗子トンネル福島側坑口。手前は新西川橋
(4代目西川橋)。
手前の山桜はまだ蕾固い。



(写真-9②)
E13 新栗子トンネル福島側坑口。 右は避難坑。



(写真-9③)
新旧大滝トンネル米沢側坑口
(左側 E13 大滝トンネル、
右側国道 13 号大滝第 1 トンネル)



(写真-9④)
現国道 13 号 現橋西川橋(3 代目)、米沢側を
望む。
標高 400m。すぐ左側に E13 新栗子トンネル
(標高 396m)あり。



(写真-9⑤)
現橋西川橋(3 代目)から南側を望む。
山桜盛り。

第 2. 大滝集落(5 月 3 日〔日〕)

桜の季節は、あっという間に過ぎ去りそうです。

1. 葭沢地区

〈葭沢橋(3 代目)〉 (写真-10①~③)



(写真-10①)
葭沢橋(3代目) 福島側から望む。



(写真-10②)
福島側から望む。



(写真-10③)
米沢側から望む。

2. 大滝地区

〈大滝記念碑〉(写真-11①~⑤)



(写真-11①)
旧分校入口から大滝記念碑を望む。
左のソメイヨシノ(種類名推定)は葉桜へ。



(写真-11②)
東側から望む。



(写真-11③)
記念碑と西川山



(写真-11④)
南側から望む。



(写真-11⑤)
分校校庭跡から望む。

〈大滝山神社・分校跡〉 (写真-12①~⑦)



(写真-12①)
上の大滝分校跡全景、西側から望む。



(写真-12②)
上の大滝分校跡全景、東側から望む。



(写真-12③)
大滝山神神社を望む。
右側「大滝分校の集い記念植樹(H220717)」
「松前紅笠桜」。



(写真-12④)
大滝山神神社と山桜。



(写真-12⑤)
神社の山桜



(写真-12⑥)
大滝山神神社・釜神様等・山神神社由来碑



(写真-12⑦)
旧分校跡から E13 大滝防災ステーション
(大滝チェーン着脱場)を望む。

3. 長老沢(胡桃平)地区

〈大滝御小休所・他〉 (写真-13①~⑤)



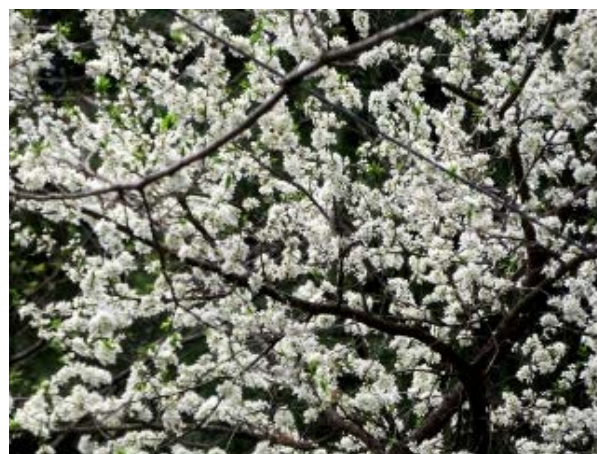
(写真-13①)
高野家跡(旧宮内屋旅館)付近から福島側を望む。
左は大滝御小休所(旧中屋旅館・渡辺正義家旧宅)。



(写真-13②)
せとの沢付近から米沢側を望む。
右は大滝御小休所(旧中屋旅館・渡辺正義家旧宅)。
左はナシとスモモの花、右上高野家跡の山桜。



(写真-13③)
御駐輦記念碑(左)と史蹟指定記念碑(右)。



(写真-13④)
スモモ独特の強い香りがあたり一面に漂う。



(写真-13⑤)
渡辺清治家旧宅の八重桜、咲き始め。
福島側から望む。左奥にスモモの花が見える。

〈旧西沢橋付近蛇体道・現国道 13 号現橋西川橋付近山桜〉

現国道 13 号現橋西川橋付近の状況の一部を本節に掲載する。(写真-14①~④)



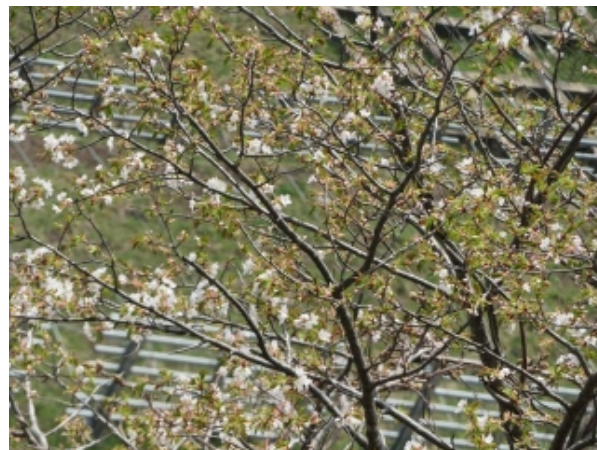
(写真-14 ①)
現国道 13 号現橋西川橋福島側の橋の下、
蛇体道から望む山桜(写真-14 ②参照)。



(写真-14 ②)
現道国道 13 号現橋西川橋から福島側(E13 大滝トン
ネル)を望む。
左側にシロとピンクの山桜 2 種。



(写真-14③)
山桜 2 種、下のピンク。



(写真-14④)
山桜 2 種、上のシロ。

4. 域外編

(1) E13 東北中央自動車道 新栗子トンネル福島側坑口付近 写真-15①~④)



(写真-15①)
E13 新栗子トンネル福島側坑口を望む。



(写真-15②)
E13 新栗子トンネル福島側坑口、右側は避難坑。
手前の橋は新西川橋(4 代目)。
左端は現国道 13 号現橋西川橋(3 代目)。



(写真-15③)
E13 新栗子トンネル(標高 394m)、右は避難坑。
手前の橋は新西川橋(4代目)。
写真奥西川山。



(写真-15④)
現国道 13 号現橋西川橋(3代目)、福島側から望む。
標高 400m。

(2) 東栗子トンネル福島側坑口付近 (写真-16①~③)



(写真-16①)
東栗子トンネル福島側坑口旧換気所(現在廃止)。
左上入モダ沢。



(写真-16②)
入モダ沢、かつてこの付近で炭焼きがおこなわれた。



(写真-16③)
旧飯坂スキー場リフト跡

第3. 大滝集落(5月7日[木]、一部5月17日含む)

大滝は、既に新緑の季節へ向かっていました。渡辺清治家旧宅の八重桜は盛りとなっています。しかし、板谷地区はこの日気温が11℃(車載温度計)と寒く、東栗子トンネル米沢側(板谷側)では山桜が盛りでしたが、栗子国際スキー場の八重桜はまだ蕾です。

1. 葭沢地区

〈葭沢橋(3代目)〉 (写真-17①~②)



(写真-17①)
新緑の葭沢橋(第3代目)、福島側から米沢側を望む。



(写真-17②)
葭沢橋、福島側を望む。

2. 大滝地区(一部5月17日含む)

〈大滝山神社・分校跡、大滝記念碑〉 (写真-18①~⑤)



(写真-18①)
分校跡、大滝山神社。



(写真-18②)
大滝山神社、名残の山桜。



(写真-18③)
新緑の大滝記念碑、背後から望む。



(写真-18④)
5月17日 青葉の大滝山神社



(写真-18⑤)
5月17日 青葉の大滝記念碑

3. 長老沢(胡桃平)地区

〈大滝御小休所・他〉(写真-19①~⑥)



(写真-19①)
高野家跡付近から福島側を望む。
左、大滝御小休所。



(写真-19②)
大滝御小休所(旧中屋旅館・渡辺正義家旧宅)を望む。



(写真-19③)
せとの沢付近から米沢側を望む。
右は大滝御小休所。
上は高野家跡の名残の山桜。



(写真-19④)
御駐輦記念碑(左)と史蹟指定記念碑(右)。



(写真-19⑤)
紺野家跡付近から米沢側を望む。
右側渡辺清治家旧宅八重桜、写真奥名残の
スモモの花。



(写真-19⑥)
渡辺清治家旧宅の八重桜満開。

4. 域外編(一部 5月17日含む)

(1) E13 東北中央自動車道 新栗子トンネル福島側坑口付近 (写真-20①~②)



(写真-20①)
E13 新栗子トンネル 福島側坑口を望む。



(写真-20②)
5月17日 E13 新栗子トンネル福島側坑口を望
む。山桜に代わって藤の花。

(2) 東栗子トンネル米沢側(板谷側)

(写真 21①～③)



(写真-21①)
東栗子トンネル米沢側坑口、山桜満開。



(写真-21②)
八重桜まだ蕾、板谷・栗子国際スキー場



(写真-21③)
5月17日 板谷・八重桜満開

第4. 大滝の山野草(山菜) (写真-22①～⑥、写真-23①～⑥)

大滝等で見つけた山野草・花木、山菜を紹介します。

なお本節では、4日分を一括掲載するが各々の撮影月日や場所は示していない。



(写真-22①)
ミヤマキケマン(深山黄華鬘)



(写真-22②)
ヒメハギ(姫菫)



(写真-22③)
フデリンドウ(筆竜胆)



(写真-22④)
ラショウモンカズラ(羅生門葛)



(写真-22⑤)
トリカブト(鳥兜)



(写真-22⑥)
タニウツギ(谷空木)



(写真-23①)
ヨゴミ(クサソテツ)



(写真-23②)
ワラビ



(写真-23③)
ゼンマイ



(写真-23④)
ミズナ(ウワバミソウ)



(写真-23⑤)
ウルイ(オオバギボウシ)



(写真-23⑥)
ヤマワサビ(山葵)

第5. 幸蔵滝・新沢橋付近(5月17日〔日〕)

5月17日、幸蔵滝と新沢橋付近を見てきたので追加報告をします。

〈幸蔵滝〉

幸蔵滝は、前述の通り現国道13号大路橋付近の1級河川摺上川右支川小川(河川名)に所在するもので、かつての地元大滝の人々にはよく知られた名瀑である。本来であれば雪解け水で水量豊かな時期と思われるが、今冬は1月に大滝に雪が無いという今までに経験のない暖冬の影響で水量は少なく迫力は今ひとつであった。しかし、新緑の幸蔵滝は小川溪谷の美しい風景の中で見応えがありました。

幸蔵滝へ行くための山径というものは特になく山の斜面を下って行くだけである。滝の辺り一体は深いV字谷になっていて、国道からは何処を下りても直ぐに急な斜面となり、小川へ下るのはなかなか厳しく危険である。その下りたところから100mほど上流にさかのぼると幸蔵滝に到達するけれども、簡単に行けるところではないので注意が必要である。

(写真 24①~⑩)



(写真-24①)
国道13号大路橋米沢側、右側下り口。
福島側を望む。



(写真-24②)
小川溪谷、小川へは急斜面を下る。危険。



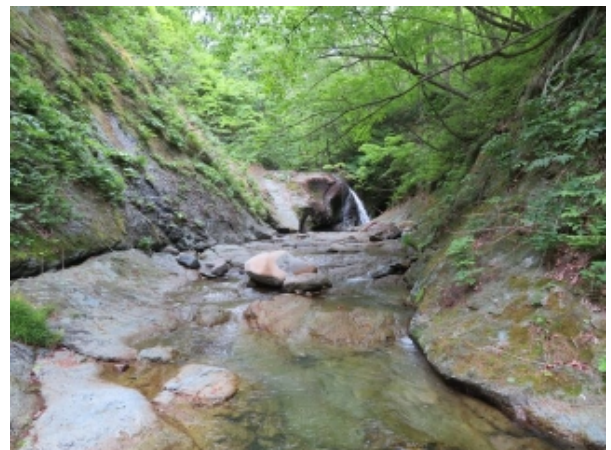
(写真-24③)
新緑の小川溪谷、上流側を望む。
小川に流れ込む小さい沢の滝が左側に見える。



(写真-24④)
小さい沢の滝を正面から望む(高さ約8m)。
幸蔵滝の手前。



(写真-24⑤)
幸蔵滝のすぐ手前、小川本川の小滝。
地元通称「一の滝」。



(写真-24⑥)
幸蔵滝見ゆ。



(写真-24⑦)
幸蔵滝と大滝会齊藤会長



(写真-24⑧)
幸蔵滝(高さ約5m)



(写真-24⑨)
幸蔵滝



(写真-24⑩)
幸蔵滝付近から下流を望む。
写真中央「一の滝」。

〈新沢橋・新沢カルバート付近〉

幸蔵滝の300mほど上流には、有名な新沢橋(3代目)の架かる新沢(小川左支川)が合流する。新沢は、現国道13号を地下横断水路(以下「新沢カルバート」と称する)で横切って小川に合流している。この新沢カルバートは、呑口側が馬蹄形の断面になっていてアーチカルバート(拱渠)と呼ばれる。このアーチカルバート部は、栗子第1トンネル(東栗子トンネル)工事(S38.6.15~S41.3.25)において施工されたものである。コンクリート製で内空断面は下幅、高さ共2.5mで、カルバートそのものの長さは全体で130m程度と思われる。中では、途中で「く」に曲がっていて、そのところから吐口までの断面は4角形に変わり、ボックスカルバート(函渠)と呼ばれる。勿論こちらでもコンクリート製でこのボックスカルバートの部分は、後で継ぎ足されたものと推定されるけれどもその施工時期は分からない。今回この新沢カルバートをくぐり小川合流地点まで行って見た。

小川は、露出している岩盤を穿ち流れていた。これらの岩盤は、いわゆる栗子層(新生代新三紀中新世)安山岩質緑色凝灰岩層と思われる(『栗子トンネル工事誌』)。

(写真-25①~④、写真-26①~⑦)



(写真-25①)
現在廃道、新沢橋(第3代)、福島側から望む。
写真中央赤色セーフティコーン箇所
に穴あり(床版崩落箇所)。



(写真-25②)
床版崩落箇所



(写真-25③)
新沢橋(第3代)、新沢下流側の沢底から望む。



(写真-25④)
下から望む床版崩落箇所。



(写真-26①)
新沢カルバート(アーチカルバート部) 呑口。



(写真-26②)
新沢カルバート呑口付近から上流部を望む。



(写真-26③)
新沢カルバート(ボックスカルバート部)吐口、
内側から下流部を望む。



(写真-26④)
新沢カルバート(函渠部)吐口を望む。



(写真-26⑤)
小川下流側から合流点(新沢カルバート)を望む。
右側、奥の転石箇所。



(写真-26⑥)
小川、新沢合流点から下流側を望む。
岩盤を流れ下る。



(写真-26⑦)
新沢合流点下流の滝(高さ3、4メートル)

おわりに（紺野健吉元会長の功績などについて）

故紺野健吉様は、昭和49年に福島県庁納税課長を定年退職し福島市内に「紺野会計事務所」を開所し個人事業主として活躍されご多忙の中、すぐに故郷大滝の歴史調査に乗り出されました。

これは昭和45年頃から収入と生活の場を求めて福島近郊に居を移し大滝を離れる人たちが多くなり、寂^{すた}れてゆく故郷を何とか後世まで語り継ぐ^{すべ}術はないものかと、一大決意されて開始されたものです。

早速、昭和49年2月同志3名を集い、現在の大滝会の前身となる「第一回大滝会」を飯坂温泉にて開催し、郷土史^{へんさん}編纂の企画検討に入りました。

昭和50年10月には第一回郷土史編集企画委員会を開催されました、この時のメンバーは紺野健吉様、須田辰雄様、後藤ユキ様の3名だけでしたがこの席で昭和52年迄には郷土史誌を作り上げることを決定されました。ちょうど昭和52年は大滝開郷100年の節目にも当たっていました。

昭和51年1月 第二回郷土史編集企画委員会を開催 初期メンバー3名で実行するには事が大きすぎると判断し、新たに7名のメンバーを加え10名体制としました。

昭和51年2月郷土史誌の名称を『わが大滝の記録』とすることを決定。

昭和51年8月資料不足を補うため、大滝出身の古老達に大滝公民館(旧下の分校)に参集していただき座談会「大滝を自由に語り合う会」を開催、参加メンバーの中から4名の方に特別委員に就任していただいた。座談会の内容をテープに録音し、後で録音テープを聞きながら資料不足を補うという地味な努力を重ね遂に当初予定の昭和52年1月には郷土史誌「わが大滝の記録」の完成にこぎつけました。

昭和52年2月、現大滝記念大会の前身となる大滝総会(第2回大滝会)を飯坂温泉湯野の県婦人会館で一泊開催し参加者全員に『わが大滝の記録』誌を配布し、また今回諸都合で参加できなかった会員には郵送することとしました。また福島県立図書館にも3部寄贈し所蔵をお願いしました。

休む間もなく昭和53年8月には、大滝記念碑建立実行委員会を立ち上げ、同じ月には「大滝閉郷前後処理委員会(会長高野幸治様、副会長渡辺要一様)」も立ち上げ、まだ大滝に在住だった諸先輩の協力も得、元大滝住民の共有財産(山畑)等を明確にし記録に残すなど、後世に禍根^{かこん}を残さぬようご尽力されました。

昭和54年5月最後の住人が大滝を去りついに廃郷となったが、10月には大滝記念碑の建立が成り記念式典を開催されました。

この後、5月は大滝会総会(兼花見会)、8月は故郷大滝の草刈り、10月の芋煮会開催等を定例化するなど、常に故郷に集う機会を設け、元大滝住民の心から故郷が乖離^{かいり}しない仕組みも構築されました。

また平成元年からは閉郷後5年、10年毎の区切りの年には飯坂温泉での一泊交流会(記念大会)も定例化され現在まで継続されています。また、平成18年10月には老朽化した木造の大滝山神社を御影石の神社に遷宮されました。

紺野健吉様は昭和54年10月の大滝記念碑建立除幕式開催時に初代大滝会会長に推され就任し、平成13年から2年間程は第2代会長(須田和市様)と交代しましたが平成15年12月には再び第3代会長に復任し、平成22年9月(92歳)の退任まで、約30年間の永きに^{わた}亘り名実ともに大滝会の芯となり牽引されてこられました。その後、第4代 木村義吉会長、現第5代 斎藤正美会長へと引き継がれ現在に至っております。

以上紺野元会長の功績を簡略に述べさせていただきましたが、これらの事は紺野元会長ひとりで出来るわけもなく、当然大滝会員全員の全面的なご協力が有ったからこそできた偉業で有ることは申すまでも有りません。最後に紺野健吉様のご冥福を祈るとともに、大滝の諸先輩に謝意を表し、また既に鬼籍に入られている先輩諸氏にも心より感謝するとともにご冥福をお祈り申し上げます。

なお詳細については [「大滝会の歩み」](#) をご参照ください。

【参考資料案内】

今回レポートでは該当箇所の詳細解説を基本的に割愛していますが、下記のサイトをご案内しますので、興味を持たれる方は参照して下さい。いずれも、当大滝会HPによります。

1. 大滝集落について

- ・大滝集落の歴史等全般について

『わが大滝の記録』（PDF版）

<https://ootaki.xsrv.jp/wagaootaki.pdf>

『万世大路開通 130 周年記念フォーラム・パネルディスカッション要旨』

（『わが大滝の記録』概要編）

<https://ootaki.xsrv.jp/130nenForum.html>

- ・大滝の歩み（随時更新、大滝集落廃村（昭和 53 年）以降の大滝会活動含む。大滝会 HP 管理人編）

『大滝の歩み』

<https://ootaki.xsrv.jp/ayumi.html>

2. 大滝山神神社について

- ・全般

〔望郷40周年記念（平成30年）ふるさと大滝の集い報告そのー4〕【別添解説資料篇】Ⅰ

『大滝山神神社（大山祇神社）について』

<https://ootaki.xsrv.jp/40nen-4.pdf>

- ・関連サイト

『大滝の山神様』

<https://ootaki.xsrv.jp/page064.html>

『山神神社鳥居新築成る！』

<https://ootaki.xsrv.jp/sintorii.html>

『大滝山神神社旧社殿の顔を保管管理』

<https://ootaki.xsrv.jp/page130.html>

3. 大滝記念碑について

- ・全般

〔望郷40周年記念（平成30年）ふるさと大滝の集い報告そのー4〕【別添解説資料篇】Ⅱ

『大滝記念碑について』

<https://ootaki.xsrv.jp/40nen-4.pdf>

- ・関連サイト

『大滝記念碑建立までの経過』

<https://ootaki.xsrv.jp/page085.html>

（『大滝記念碑除幕式並びに物故者合同慰霊祭』昭和 54 年 10 月 14 日）

『大滝記念碑建立時の記録写真（昭和 54 年 10 月 14 日）』

<https://ootaki.xsrv.jp/page117.html>

『大滝出身者の集い（離郷回想 20 周年記念）平成 10 年 10 月 11 日』

<https://ootaki.xsrv.jp/page042.html>

4. 大滝集落内の橋梁について

別添資料 「大滝集落内に架かる橋・現存 6 橋諸元等」

5. 幸蔵滝について

『幸蔵滝－1、－2』

<https://ootaki.xsrv.jp/page147.html>

6. 新沢橋について

・全般

『大滝会万世大路探索会探訪記(2)』

<https://ootaki.xsrv.jp/tansakuki2.pdf>

・関連サイト

『平成 27 年晩秋の万世大路を歩く ーその 4ー』 (新沢橋変遷の写真)

<https://ootaki.xsrv.jp/27akiban-4.pdf>

7. E13 東北中央自動車道 新栗子トンネルについて

『万世大路、山形県側と福島県側（二ツ小屋隧道）の現況について』

「そのー2 二ツ小屋隧道と東北中央自動車道」

<https://ootaki.xsrv.jp/2futatsukoya.pdf>

8. 万世大路全般について

『万世大路読本』

<https://ootaki.xsrv.jp/banseiojidokuhon.html>

【別添資料】

「大滝集落内に架かる橋・現存 6 橋諸元等」

橋名	明治期初代橋梁（木橋土橋）			現存橋梁（3代目）		
	橋長	幅員	施工時期等	橋長	幅員	竣工月日等
葭澤橋	18.2m	6.4m	明治10年10月～明治14年6月（福島県）	22.4m	6.7m	昭和53（1978）年3月（鋼橋、福島市役所）
大滝橋	10.9m	〃	〃	10.6m	6.3m	昭和40年代前半（コンクリート橋、福島市役所）
いら沢橋	10.9m	〃	〃	10.5m	5.5m	*昭和40年（1965）7月（コンクリート橋、福島市役所）
入イラ澤橋	3.6m	〃	〃	3.1m	6.0m	*昭和9年（1934）年8月（コンクリート橋、福島県）
胡桃橋	18.2m	〃	〃	15.0m	6.6m	昭和11（1936）年3月（コンクリート橋、福島県）
西川橋	15.5m	〃	〃	8.2m	4.5m	大正12年（1923）（I型鋼桁、福島県）

注1 （）内は、橋種及び事業主体（*：推定含む）。

注2 明治期諸元等は、県庁文書「萬世大路事業誌」（明治14年）による。各橋梁の個別の竣工年月日は記されていない。

注3 旧大滝集落内の旧国道は現在市道長老沢線で、現存橋梁（除西川橋）の諸元（橋長・幅）、完成年月は、「福島市役所定期点検結果H30.3」（福島市役所HP）による。

橋種は現地を確認、橋名・完成年月については胡桃橋及び入イラ澤橋は現地確認済み（親柱に橋名板等の残存している橋梁）。

注4 旧西川橋（現在廃道）の諸元等は『1級国道13号線新栗子隧道計画調査報告書（その1）』（昭和35年10月東北地方建設局福島工事事務所）による。本橋は2代目、3代目は現国道13号に架かる現橋西川橋となる。

なお、現存旧西川橋には高欄が設置されていない（昔からなかった、大滝会員談）。

(H30.11.11)

【参考】

2代目葭沢橋	19.1m	4.4m	I型鋼桁	大正13年完成
2代目大滝橋	10.7m	4.6m	〃	昭和7年完成
2代目いら沢橋	10.7m	5.4m	木桁	〃

(R02.04.29 追記、出典：上記注4)